

(国語科)

「主体的に学ぶ子どもを育てる国語科の指導」

—読むことの指導を通して—

大阪市立菅原小学校 奥田優太

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標「活気あふれる学校」を設定し、「基礎的・基本的な学習内容確実に習得した子ども」、「自ら考え、問題を解決できる子ども」、「きまりを守り、望ましいマナーを身につけた子ども」、「豊かな心をもつ子ども」、「進んで運動に親しみ、いろいろな運動に必要な体力を伸ばす子ども」、「健康の大切さがわかり、進んで健康な生活をおくる子ども」を育てたい子ども像として、日々の教育活動を展開している。

本校の児童の現状と課題を考えるにあたって令和元年度の大阪市学力経年調査の結果を分析した。その結果、多くの項目で校内平均が市平均を下回っていたことがわかった。その中でも特に読む領域を改善する必要があると考えた。また校内児童アンケートにおいて「自分から進んで読書をしている」と肯定的に回答した児童の割合が60%と読書に関心が低く、進んで読書ができていないという実態も浮かび上がった。そこで令和2年度から国語科を研究教科として設定し、取り組みを始めた。令和2年度には「読む力」を高めるために説明的文章における文の構造や読解の基礎、令和3年度からは、「読むこと」を通して自分の考えを表現する「書く力」の育成、そして令和4年度からは物語文でも同じように取り組んできた。さらに互いの考えを伝え合い、自分の考えを深めたり、広げたりするための話し合い活動にも取り組んできた。そして、本年度は「主体的に子どもを育てる国語科の指導」、副題を「読むことの指導を通して」と設定し、研究を進めた。

2. 研究の趣旨

令和元年度の大阪市学力経年調査の結果や本校が実施した児童に対するアンケート結果から、読む領域に苦手意識があることがわかった。また読書に関心が低く、進んで読書をしている児童の割合が目標値を下回っていることもわかった。そこで、国語科の指導、特に読むことの指導を通して、主体的に学び自分の考えを表現できる児童を育てたいと考え、学校の教育活動全体で児童の主体性を育むことをねらいとした。また、読書環境の整備や読書イベントを企画するなど読書活動の充実を図ることにより、児童が進んで読書に親しむことができると考えた。国語科の時間においては、文章の内容を理解するための読み取り、読み取ったことから自分の考えを表現するために書く、自分の考えを話し合い活動を通して伝え合うという「読む力」「書く力」「話し合う力」などの活動を通して主体的に学びに向かう児童を育てられるような取り組みを進めている。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点①「読む力」「書く力」を高める指導の工夫

○ 教材文の内容を正しく理解する「読む力」の育成。

一 斉読みやリード読み、一人読みなど発達段階に応じた音読指導を通して、読み取った内容

を整理するために関係図や表にまとめたり、重要だと思える語や文に線を引かせたりするなどの活動を行った。

- 理解したことに基づいて自分の考えを書き表す「書く力」の育成。

叙述に基づいて表現することを意識づけてきた。書き出しや書き方を例示したり、ワークシートを工夫したりして書くことが苦手な児童も主体的に取り組めるようにした。

視点②自分の考えを深めたり、広げたりするための話し合い活動

- 自分の考えとの共通点や相違点について話し合うことを通して、考えの共有を図る。自分の考えを他者と比較し、多様な考えに触れることで新たな疑問や視点が生まれることを目指した。
- ペアやグループなどの少人数集団から全体での話し合いへと段階をふむことで発表が苦手な児童も少しずつ自信をもって発表ができるように工夫した。

視点③読書活動の充実

- 児童が進んで読書に親しむことができるように同一テーマや同一作者の図書を読み広げる並行読書や図書を使った言語活動などを単元の中に取り入れた。
- 学校図書館部の取り組みとして、児童が読書に親しむ機会を増やすために様々な読書活動を企画した。
- 図書の時間に様々なジャンルの本を3分間という短時間で読むことで読書意欲を引き出し、その後の読書活動につなげていく「3分間読書」に取り組んだ。
- お題に関連するテーマの本を読んでビンゴを目指す「読書ビンゴ」取り組んだ。
- 期間内に何ページの本を読むことができたかを視覚化する「読書マラソン」取り組んだ。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 読む力を育成することで、自分の考えを主体的に表現したり、書き表したりすることができるようになってきた。
- 話し合い活動では自分の考えを他者と比較し、共通点や相違点を見つけることができた。
- 読書活動の充実によって、本に親しむ児童の姿が以前よりも見られるようになった。

(2) 今後の課題

- 話し合い活動において自分の考えを深めたり、広げたりするまでに至らなかった。
- ペアやグループから全体での話し合いだけでなく全体からペアやグループへの話し合いの流れを取り入れる。
- 全体での話し合いで指導者が児童の思考をゆさぶる発問をしていく。
- 板書を通して児童の考えを整理する工夫をしていく。